

来ました。回答してくれた事業所には再度訪問して学習会への参加をお願いしながら訪問介護事業所の大変さについて伺いました。

報告会では、ヘルパーさん、家族介護で苦労した方、介護問題に強い関心を持っておられる方など4人が発言しました。当日は、市民として西東京市長の参加があったためみんなびっくりしました。市長は「西東京社保協通信」を読みたいので市長室の届けてもらいたいという話にもなりました。今後もこうした取り組みを続けていくことが大切だと思いました。《西東京社保協 尾花幸紀さん記事抜粋》

従来の保険証復活求め署名1, 885, 594筆提出

5月15日には、衆議院第2議員会館 多目的会議室にて、医療団体連絡会議・中央社保協・マイナ連絡会主催で「保険証を使い続けたい」署名提出行動が行われました。継続した取り組みの中で188万5594筆提出されました。国会への要請とともに全国ですすめられている意見書提出の取り組みでは、4月21日現在38都道府県の中の231の自治体で「健康保険証の存続等を求める意見書」が採択されていること、また渋谷区と世田谷区で「資格確認書」の全員交付がされることになったことが紹介され、引き続き運動をすすめることが確認されました。

『紙の保険証を使い続けたい』街行く人に訴え 新宿駅南口で宣伝

5月13日にマイナンバー制度反対連絡会(マイナ連絡会)が、新宿駅南口で「従来の保険証の存続を求める」署名宣伝行動を行い6団体76人が参加、チラシ入りのティッシュを配布し、署名80筆を集めました。宣伝では、マイナ保険証が定着しないのはいまだにトラブル続きだからだ。マイナ保険証の登録解除の申請が5万8千件にのぼっている」などが紹介されました。チラシを受け取り一度通り過ぎそうになった人でも戻って署名をしてくれる人もいました。署名をしてくれた人たちからは「マイナカードで個人情報が入るの嫌」と、対話になる宣伝行動となりました。



いのちのとりで最高裁判所前 生存権裁判を支える東京連絡会



5月27日(火) 10年以上の歳月をかけてたたかわれてきた「いのちのとりで裁判」で、大阪控訴と名古屋控訴の上告審の弁論が、最高裁判所で開かれました。正午に最高裁判所前で激励行動、参議院議員会館前での宣伝、大阪・名古屋の控訴審報告の参議院院内集会と続けました。

院内集会は、会場に310人リモートでの参加は全国から107カ所となりました。原告・弁護団などから発言が続き会場は熱気に包まれました。閉会で、いのちのとりで裁判共同代表の尾藤弁護士は「わたしたちは今回の上告審で①当事者の訴えを重視し②国がやったことのデタラメさを訴えた。判決は1ヶ月後だが、最後までやれることをやりきことが重要だ」と訴えました。

大阪・名古屋最高裁判決期日 6月27日(金) 15時

介護保険制度抜本改善・ 介護従事者の処遇改善めざし署名提出行動

2025年5月27日(火)、衆議院第1議員会館大会議室において、「介護保険制度の抜本改善、介護従事者の処遇改善を求める請願署名」提出集会を開催しました。当日は、会場参加者140名、オンライン参加者80アクセスの参加を得て盛況に行われました。今回の署名提出は、今年2月に実施した提出に続くもので、全国から計341,301筆の署名が寄せられました。これに対し、署名の紹介議員は109名のぼり、集会にはそのうち8名の紹介議員が出席して挨拶を行い、さらに10名からは応援メッセージを頂きました。なお、本署名の提出は今回が最後となりますが、引き続き課題解決を目指し、今夏には全労連、全日本民医連、中央社保協の三者により新たな署名活動が提起される予定です。

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F
TEL: 03-5395-3165 FAX: 03-3946-6823
東京社保協 検索

東京社保協第55回総会を開催



2025年5月17日(土) けんせつプラザ東京で開催しました。総会は、102人(会場71人、オンライン31人)が参加しました。

総会議長には、東京自治労連の秋元裕子さん、東京医労連の高松栄次郎さんが選出され、清水浩介事務局次長より開会あいさつが行われました。

来賓として、政党より社会民主党の伊地智恭子東京都連合副代表、日本共産党の大山とも子東京都議団長に会場でのご挨拶を頂きました。

第54期活動のまとめと決算について、大嶋祐介事務局次長より報告を行いました。

石破政権による、過去最大規模の防衛費計上と、その一方で1.1兆円規模で進められようとしている社会保障費の歳出削減について言及。持続可能な制度という名の下に、分断と負担の押し付けが巧妙に進行していること、「支える若者」対「支えられる高齢者」という対立構図が強調されていると指摘しました。社会全体の信頼を損なう分断政策の抗し、すべての人にとっての人権としての社会保障を守り発展させていくことは、私たちの求められていると強調しました。

また、地域社保協の運動に呼応して、東京社保協として「特別区長会に対して懇談する事」「地域社保協間で悩みを相談し合える交流の場の設定」など、課題を確認しました。

55期の活動方針案と予算案を引き続き大嶋事務局次長より提案されました。活動方針案では、諸要

求運動の連帯で「人権としての社会保障」へと定着させる取り組み、平和と人権をまもり、憲法改悪を許さない取り組み、東京都・区市町村が「住民のいのちとくらしを守る防波堤」となるよう、諸団体との共同・連携を強める取り組み、社会保障関連の学習会開催と支援の強化、地域社保協の組織強化で、地域での要求実現力を高めていくこと等が提起されました。また、議案を深める立場で、17団体から、現場からの告発や取り組みの報告があり、全体の拍手で議案と予算案が可決されました。最後に吉田章会長から討論のまとめが行われました。

盛大に結成55周年レセプションを開催



総会に引き続き、けんせつプラザ東京をお借りして、東京社保協結成55周年の記念レセプションが開催され、来賓含む52人が参加しました。当初予定されていた50周年がコロナ禍で延期され55周年レセプションとなりました。

オープニングでは、社会保障をめぐる各分野の取り組みについてまとめた動画を視聴。吉田章会長のあいさつの後、須田昭夫前会長の音頭で乾杯となりました。

コロナ禍以来久しぶりの飲食付きのレセプションで、参加いただいたみなさんも和やかな懇談となりました。共闘団体・政党からの激励と連帯のスピーチをいただき、最後に、井澤智副会長の閉会あいさつで終了となりました。

第96回中央メーデーに1万4千人



今年も代々木公園サッカー場をメイン会場に中央メーデーが開催され、1万4千人が集いました。

「最低賃金今すぐ全国一律1500円」「ケア労働者の大幅賃上げ・大幅増員」「教職員の長時間労働解消を」などを訴えました。

主催者を代表して、全労連議長の前山正臣代表委員があいさつ。2025年春闘では多くの組合が1万円以上の引上げ回答となる一方で、医療関係が平均を押し下げている。物価上昇率にも及ばない報酬改定では医療産業は成り立たないとして、公定価格の緊急引き上げを求めました。また、米・食料品の口頭で実質賃金はマイナス、政府が行うべきは、食糧自給率を大幅に向上させることだと訴えました。また、唯一の被爆国として、日本は核兵器禁止条約に参加し、核兵器廃絶の先頭に立って、世界各国に呼びかけることが求められると強調しました。「軍拡よりも国民のいのちとくらし、教育に回せ」と訴え、財政を転換させようと呼びかけました。

中央メーデーの式典に先立つ文化行事では、在日韓国人3世のオモニたち「ヘバラギ」によるコーラスや、舞踊教室「サンミギョ」による鮮やかな扇の舞や群舞の披露があり、参加者から歓声と拍手がわきました。

集会終了後は恵比寿・青山・代々木の3つのコースに分かれてデモ行進。道行く人たちにアピールしました。



武力ではなく憲法で平和をつくりだそう 5.3憲法集会に3万8千人

5月3日、「未来は変えられる！戦争ではなく平和な暮らし！2025憲法集会」が、有明防災公園で開催され、前日までの雨と打って変わった晴天の中3万8千人があつまりました。

実行委員会を代表してあいさつした菱山南帆子さんは、「分断と対立を乗り越えて共同で憲法集会が開かれて10年、幾度も訪れた改憲の危機を跳ね返してこれたのは、憲法集会を中心として粘り強い市民運動があったから。ミサイルではなく憲法で平和をつくりだそう」と、総がかり行動実行委員会の署名と対話運動、参院選に向けた運動で改憲勢力を追い詰めようと呼びかけました。

日本被団協の代表委員 田中熙巳さんは「世界は核戦争の危険な状況にある。何とかして打ち破りたい。核兵器は絶対に使ってはいけないという規範を70年にわたってつくりあげ、80年間核戦争を起こさなかった日本被団協、被爆者の運動を引き継いでほしい」と訴えました。

集会終了後は、「HEIWAの鐘」の明るい歌声に送られてデモ行進をしました。



定例の宣伝行動で 新しい社保協チラシお披露目

5月14日(水)に御地蔵様の4の日ということで定例の巣鴨駅宣伝を行いました。10団体45人が参加し32筆の署名が寄せられました。この宣伝では東京社保協が新しく作成したチラシを御披露目のかねてティッシュに折り込み配布しました。

次回の4の日宣伝 6月14日(土) 巣鴨駅 7月14日(月) 12～13時

補聴器購入助成実現へ署名開始 みんなのきこえを実現する東久留米の会(準備会)

補聴器購入への助成制度実現を中心に活動している「みんなのきこえを実現する東久留米の会(準備会)」が東久留米市長あてに、同制度実現を求める署名を開始しました。

東京都では、補聴器購入助成制度についてじっしちたいへ50%の補助を始めており、すでに23区は全区が実施、多摩地区でも14市が実施してい

ます。東久留米市はこれまで、この要望に応えてきませんでしたが、23年秋に発足した同会は、市内各所で懇談と聴力の簡易チェックを行い、都議会へも陳情しました。地域で行われた簡易チェック会では、参加者から「補聴器を利用している人の話はどれも具体的で、とても参考になった」と好評です。

そして、市民の声を直接市長に届けようと、9月末までに1万筆を目標に署名に取り組んでいます。

署名用紙は、東久留米社保協でも取り扱っています。※補聴器は、コミュニケーションを保障し認知機能の保全や危険察知にも有効とされています。

《東久留米社保協ニュースより》

各地域・団体の取り組み

年金問題で学習し総会を開催 町田社保協

4月26日に町田社保協が学習会と総会を開催し6団体10人が参加しました。

まず初めに、全日本年金者組合の木田保男書記長を講師に「年金積立金で年金は増やせる！」と題して学習しました。木田氏は政府は「『年金制度改革法案』を未だに国会に提出していない。『マクロ経済スライド』を廃止して減らない年金を保障し、300兆円の年金積立金と、530兆円超の大企業の内部留保で年金の引上げを」と訴えました。参加者からは「年金積立金が300兆円もあることに驚いた」等の感想が寄せられました。

総会では、社保協として取り組んだ「高齢者医療・介護等」要請書の町田市への提出と懇談や、市議会への「補聴器購入助成」と「国保税値上げ反対」の陳情等が報告されました。新年度方針では、社保協のホームページや「なんでも相談会」実施について検討をすることになりました。

《町田社保協通信より》

総会で元気が出る経験を交流 墨田社保協

5月22日(木)、墨田社保協第18回定期総会が曳舟文化センターで10団体29名の出席で行われました。

総会の議事では、中村事務局長(墨田労連)から、一年間の活動報告がありました。対区要請行動では、

毎年行うなかで、がん検診や健康診断の項目を充実させている成果が出ています。補聴器購入助成問題でも、「私の一言」アンケート付きチラシを配布し区民から切実な生の声を引き出すことで、次に繋がる運動になっています。宣伝行動では「紙の従来の保険証を残して」と区民の不安から共感を広げるものになったことなどの紹介もありました。

総会は、新しい役員を選出して、最後に、藤川代表(東京土建支部執行委員長)が閉会あいさつをして会を閉じました。(詳細は来月追加で報告します)

《中村和良事務局長から投稿を抜粋》



学ぶことが多かった訪問介護アンケート報告・学習会 西東京社保協

4月13日(日)に「訪問介護アンケート報告・学習会」を開き、雨の中36人の方が参加しました。この取り組みの成功をめざして、西東京市内の33の訪問介護事業所にアンケート用紙を手渡して協力を要請し、15の事業所から回答を得ることが出

地域社保協の情報をお寄せください
地域の取り組みの交流で
運動を前進させましょう！
チラシ・議案
東京社保協へメールで
情報提供をお願いします
ニュースなど